

標 題	中山間地域で最も優先する課題は畦畔管理労力の軽減対策！！ ～水田畦畔管理労力軽減対策（センチピードグラス活用）研修会を開催～
-----	---

（ダイジェスト）

高齢化や担い手不足に対応した畦畔管理技術の普及を図るため、12月20日、川本合同庁舎で、邑智郡内の集落営農組織や中山間集落協定関係者を対象に、センチピードグラスを活用した畦畔管理の事例や吹きつけによる播種方法を把握する水田畦畔管理労力軽減対策研修会を開催しました。

水田畦畔の草刈りは夏場の暑い時期の作業となるため、高齢化が深刻な邑智郡内の各地域では、畦畔草刈り労力軽減対策が重要な課題となっています。

集落座談会等でも、必ずといっていいほど畦畔管理の労力軽減対策が話題に上っています。

一方で、センチピードグラスを活用した畦畔管理は邑智郡では浸透しておらず、特に種子の吹きつけによる播種方法は全く導入されていません。

このため、県内で浸透してきているセンチピードグラスによる畦畔管理は邑智郡内でも有効と考え、管内の取り組み推進のきっかけづくりとして、邑智郡農業士会と西部農林振興センター県央事務所が共催で水田畦畔管理労力軽減対策研修会を開催しました。

研修会には、集落営農関係者や中山間集落協定関係者等の農業者や関係機関から75名が参加し、技術普及部陶山専門普及員から県内の事例報告、県央県土整備事務所の玉木課長からセンチピードグラスが導入できる基盤整備事業、（有）だるま製紙所の高瀬専務から吹きつけによる播種方法の講演を受けました。

講演終了後のアンケート調査では、90%がセンチピードグラスは畦畔管理に有効と考え、また、「1～2年以内に導入したい」「3～5年以内に導入したい」が合計で56%となりました。

「今、導入に必要なこと」としては、「予算確保」が32%を占め、次いで「地域の合意形成」が27%とつづきました。

さらに、地域の最も優先する課題を尋ねたところ、畦畔管理労力の軽減が44%、担い手不足対策が26%、有害鳥獣対策が20%となりました。

普及部では、畦畔管理対策は集落営農や地域の景観維持に結びつく重要な課題として位置づけ、町やJA等関係機関と連携し、地域的条件を考慮しながら支援したいと考えています。

